

AIDSネットワーク横浜 ニュースレター

発行：特定非営利活動法人 AIDSネットワーク横浜

〒231-0015 横浜市中区尾上町 3-39 尾上町ビル 9 F

TEL：045-201-8808 fax：045-201-8809

ホームページ <http://www.netpro.ne.jp/any/>

e-mail：any@netpro.ne.jp



世界AIDSデー in横浜 が開催されました

日時 2019年11月30日 11時～16時30分

会場 横浜新都市プラザ （地下2階のそごう入り口前の広場）

世界AIDSデー横浜が開催されました

横浜AIDS市民活動センターの主催でANY、AWC、技師会、SHIP、YMCAの5団体が参加して盛大に行われました。

例年になく、今年は風を冷たく感じる一日でした。ANYからは13名がスタッフとして参加しました。



10時にボランティアスタッフが集合して一日の作業の流れや注意事項を確認してそれぞれのブースの設営にかかります。11時から開始です。

11時になりました、アナウンスで本日のイベントの趣旨をお知らせして始まりました。アナウンスは、U=Uのことや12月2日から受け付けられる横浜市の性的少数者や事実婚のカップルが結婚に相当する「パートナーシップ宣誓制度」のことが、通行中の人々に向けてやわらかな口調で語りかけられました。それらを聞いて、パネルに見入っている人も多くみられます。【4頁に続く】

A I D S 診療症例研究会の報告**事務局長 堀尾吉晴**

主催 : 神奈川県エイズ治療拠点病院等連絡協議会
実施日時: 2019年10月16日(水) 18:30~20:00
会場 : 神奈川県総合医療会館 2F 会議室
参加者 : 約30名 (A N Yからは理事長・電話相談員で4名)

〈講演要旨〉

今回は、北里大学からの報告が2本で、医師からのものが1本、看護師・S.W.からのものが1本でした。

40代外国籍患者 A I D S 症例**感染内科学 和田 達彦**

冒頭に「ちょっと悔しい例として報告します」という発言の後の報告。

経緯: 40代、外国籍の男性で、8ヶ月前から他県で就労(不法就労)。主に土木作業などをしており、来日以来日本からは出ていない。今年3月中旬に体調を崩し、療養のために妻、友人と相模原市に。すぐに市内の病院へ。感染症は疑われたが、腎肝機能障害として北里病院に救急搬送。集中治療室で検査。乳酸値が高く、白血球・リンパが少なく、CD4値は5と極めて少なく、HIV検査はI型陽性。腎、肝への投薬と透析を実施。患者は外国人登録もなく、無保険であった。妻に感染と症状とを伝えたが、経済的理由から、積極的な治療を望まなかった。

症状: 血液中に酵母様のカビを認め、千葉大に同定を依頼したところ、「真菌のヒストプラズマ」と判明。

ヒストプラズマ症の治療とHIV治療をやる必要を妻に伝えたが、経済的理由で治療を希望しなかった。入院5日目に痙攣を起こして、患者は死亡した。

〈ヒストプラズマ〉: 鳥やコウモリの排泄物で成長し、それが多量な土壌などが荒らされて、胞子が空中に飛散し、それを吸って感染する。ほとんどが肺への感染。免疫力があれば治療せずとも発症せずに回復に向かうが、低免疫だと2週間で発症する。

HIV感染者でのヒストプラズマの日本での症例は、日本人感染者7587例中3例、外国籍感染者1349例中4例と少ないが、米国では1935例を数えている。

HIV感染者の場合、治療しても40%が、無治療では70%が死に至るという報告がある。

課題（質問も含めて）：① 最近は、無保険の外国籍の患者が少なくない。就労資格無しで働いている。それらの人に対するマニュアルが神奈川県や本院には無い。搬送されてきて、治療を始めてそれが判る。考えなくてはならない課題である。（東京では補助金もあると聞いている。）現状では、大使館と連絡を取って、歩行可能で帰路に耐えられる人は本国に帰すこともある。

② 最近の災害の多さも考えると、感染者がヒストプラズマ以外にも様々のものに暴露されることが考えられる。交通遮断などで通院できないことを考えると、感染者に対する投薬量に余裕を持たせたほうがいいので、1～2週間分は余分に持つように指導はしている。

③ 感染を知らないことで、様々なものに暴露される可能性がより高くなる。

H I V陽性者を地域で支えるために

看護師 加藤 笑 S.W. 本田 伊織

現況：北里大学病院では、H I Vについて、他院や保健所からの紹介で、年間4～5名の要入院患者、約150名の感染者を受け入れており、HIV治療のための入院患者はほとんどいない。それらの方々への支援のためにトータルサポートセンターを他職種連携で設置している。

現在の外来通院患者数は164名（20代9、30代27、40代53、50代38、60代19、70代12、80代6）、男性147、女性17である。過去5年間では、治療中にドロップアウト（6ヶ月以上来院なし）した方3名、転院された方8名である。

事例1：40代の男性が健忘症などで入院。H I V検査で+が判明し、H I V治療を行った結果良化したが、右上下肢不全が残った。家族との関係で、在宅療養が困難なので、S.W.らと転院先を検討した。療養先では他の入所者にカミングアウトしないことにして退院し、施設から通院している。

事例2：近年の薬剤の進歩でA I D Sにならなくなっているが、当然、慢性疾患として高齢化が進んでいる。H I V感染者は認知機能の低下が進む傾向が見られ、薬の飲み忘れが少なくない。

60代の独居男性がH I Vで転院してこられた。脳梗塞も見られたので施設入所を検討したが、長期療養施設やホスピスでは受け入れてくれる所がほとんど無い。多くはすぐに断り、質問をしてくれる施設や相談を受けてくれる施設でも、断られることが多い。17箇所を打診して、北関東で1箇所受け入れてくれた。H I Vは「社会に受け入れられにくい病気」ということを実感した。施設では、「知る機会が無いので」という不安が多く聞かれた。受け入れが当たり前の社会になってほしい。

感想： H I Vに対する感覚が以前と変わっていないことを感じた。私どもの相談活動、啓蒙活動が変わらずに必要。高齢化と通常より早い認知障害は、治療の新たな課題と思われる。不法滞在、不法就労、無保険の患者に対するマニュアルの作成を行政主導でも作成する必要がある。

【1頁からの続き】名雪さんは、終日、声かけながらパンフレットの配布を担当しました。

ANYは、子ども向けパズルとレッドリボン作りを行いました

ANYはワークショップで、子ども向けパズルと、レッドリボン作りを行いました。

エイズデーのイベントのお知らせをしながら呼びかけを行います。呼びかけても足早に道行く人も多くなかなか繰り返しの呼びかけを行いました。子どもにせがまれてパズルに参加する家族の姿も多くありました。

子ども向けパズルの参加者は65名でした。2歳から14歳までの幅広い年齢の子どもたちの参加がありました。子どもたちはにぎやかに笑顔で楽しんでいました。子どもがパズルをしている間に親にはレッドリボンを作ってもらいます。パズルが完成すると景品のお菓子を選んでもらって渡し子ども向けパズルの参加者は65名です。どの子もお菓子選びには悩んでいる様子がかっこいいです。

レッドリボン作成は42名、そのうち子どもの参加も3名ありました。

笹田理事長のお孫さんの竹原さんが今年もコムちゃんに入ってPRに大活躍でした。

堀尾事務局長は本部席に張り付き

本部席では、堀尾さんたちが動物や花のアートバルーンを作成し、プレゼント。待ち時間が出るほどの人気の様子でした。クイズラリーの回答のチェックの担当をしてくださった高瀬、鯉渕さん、お疲れ様でした。それぞれの部署で動いていたので集合写真は撮れませんでした。スナップ写真をお届けします。



電話相談件数
10月 60件
11月 53件

訃報のお知らせ

笹田克子理事長の夫君である笹田照雄氏が去る令和元年10月17日85歳にて永眠されました。笹田照雄氏は、長年にわたりANYの活動に大変なご理解をいただき、また多大なご寄付を賜りました。ここに心よりの感謝を申し上げます。

安らかに眠りくださいますようお願いいたします。